

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第3回 近江八幡市西の湖廻遊路整備推進会議		
開催日時	令和4年1月19日（水） 9時30分～11時30分		
開催場所	西の湖すてーしょん		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	別紙参照		
次回開催予定日	令和4年3月		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部企画課 東 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ <input type="checkbox"/> 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

■ 1. 開会

事務局

- ・本日は、堤委員、高木委員、小跡委員、栄畑委員、森村委員、オブザーバーの東近江土木事務所から、欠席の連絡をいただいている。

■ 2. あいさつ

座長

- ・本日は西の湖を廻る様々な主体の整理と組織化に向けた議論、また基本方針の策定に向けた意見交換をしたいと考えており、様々な意見をいただきたい。

■ 3. 議事（1）西の湖周辺の活動団体に係る情報共有と組織化について

座長

- ・次第に基づき進めていく。
- ・議事①「西の湖周辺の活動団体に係る情報共有と組織化について」だが、事前に皆様よりいただいた情報を事務局でまとめていただいた。まずは、事務局より資料についての説明をお願いします。

事務局

- ・資料1は、事前準備として各委員からいただいた活動団体に関する情報を一覧にし、事務局で活動分野と組織を大まかに分けたものである。文言等修正している箇所もあり、訂正がある場合は指摘いただきたい。また、本リストは、現状把握しているものを集めたため、リストから漏れている団体等があれば、お示しいただきたい。
- ・資料2の地図は、各団体の活動場所が具体的にある場合などに地図を活用いただきたい。

座長

- ・資料1には、全部で56もの団体等が記載されている。組織の種類としては、NPO法人等に始まり、教育機関、行政機関等、農業関係の団体から個人の方までおられる。
- ・そして、特筆すべきは事業者の方が非常に多く、この場所で生業をされているところもあれば、ボランティア活動をされているところもある。また、後半は様々なテーマに沿って地元で活動されている地域団体の皆様が記載されている。
- ・委員の皆様からいただいた情報が元となっているが、他にももっとこんな団体があるや、ここは違うのではないかというようなことなど、なにかお気づきの点があれば、ご教示願いたい。
- ・併せて、このように多数の主体が西の湖で様々な活動を行っているということで、この会議のテーマが西の湖をめぐる廻遊路であり、単に物理的に一周できる道を作るというよりも、もっと広く深い意味を持って、この会議では議論いただいているところである。
- ・そういった目標に向かってこれらの活動団体等に参画いただける場、プラッ

トフォームや組織というようなものについて、どのように考えているかを各委員から意見をいただきたい。

委員 ・活動団体がある程度まとめていただいたので、全ての団体の詳細説明をいただくのは難しいと思うが、各委員からそれぞれいくつかの団体について、ご紹介いただきたい。

座長 ・それでは、提供いただいた活動団体の情報について補足説明をお願いしたい。

委員 ・まず、資料1の4番にあるNPO法人西の湖自然楽校は、市職員も関わってNPO法人を運営している。この団体は、子どもたちが遊びや体験を通して学ぶ機会が少なくなっているということで、月1回の冒険広場、年4回の星空観察会やその他の会などを開催している。
・13番の小中之湖土地改良区は、西の湖の隣によしきりの池という池があり、年5回程度、その周辺も含めて、除草作業を行っている。
・そして、45番の西の湖下豊浦港を美しくする会は、緑の募金の活用に応募され、植栽活動をされている。令和3年度は、豊浦港でヒラドツツジ10本、よしきりの池でサツキ12本を植えられた。

委員 ・資料1の46番に記載の近江八幡市ヨシ群落保全団体については、近江八幡葎生産組合、佐々木土地株式会社、葎留という3つの団体で構成されている。活動目的は、ヨシ群落の適正な管理により、西の湖周辺の自然を守り、水辺の生態系の保全を図ることである。活動内容は、西の湖周辺のヨシ刈りやヨシ焼きなど、ヨシ群落の保全に関する活動を総勢約100名で取り組んでいただいている。

委員 ・直接このリストに挙がるような取組としてはないが、市としては事業者や市民活動などを様々な形で支援する立場でもある。
・例えば、資料1の2番に記載の一般財団法人ハートランド推進財団が西の湖周辺の活動団体の支援とあるように、市では西の湖に限らず、市民活動団体を支援する取組として、当財団を通じ、毎年400万円程度の補助金を出している。その中で、西の湖で活動している団体にも補助金を出している。
・また、観光事業者についても、市文化観光課を通じて支援、連携をしている。

委員 ・資料1の37, 38, 39番に記載のヨシ事業者を挙げさせていただく。コロナ前には、ある事業者から事業承継の相談があった。西の湖周辺のヨシは全国トップクラスという程の良質なヨシだが、近年ヨシの質が悪くなってき

ているとのことだ。酸性雨などの環境問題もあり、自分たちが自信をもって商品を出荷できるようなヨシがなくなってきているとのことだ。

- ・また、後継者がいない。まちづくり会社まっせが行っていた文化庁の補助金を活用した松明祭り事業などでも、それぞれの事業者にお世話になっていたが、いずれも事業主が高齢で、このままでは廃業という流れになってしまうのではないかと懸念している。
- ・事業主と事業承継の話をした中で、ヨシの質が悪くなってきており、生業として成り立ち難いという話もあったが、地場産業として、何らかの形で継続できればと思っている。

委員

- ・56団体挙がっていたので、それを地形的にどこに所属しているか知り得る限りでまとめると、重要文化的景観の中にある円山町エリアや白王町エリアは具体的な事業者や団体が挙がっているが、それ以上にもっとあるかと思う。また、安土エリアは団体数が非常に多い。
- ・地域団体は様々な場所で活動されており、事業者はそれぞれのエリアでしっかり活動をされているのではないかと感じた。なお、近江八幡商工会議所や近江八幡青年会議所、安土町商工会が抜けているかもしれない。また、商工会議所関係でもヨシ刈りをされているのではないか。ヨシ刈りに携わっている事業者や個人は、他にももっと多くいらっしゃるのではないかと思う。
- ・前回、座長から紹介いただいた麻機遊水地の事例で言うと、80程度の事業者がおり、個人でも関わっていらっしゃるということだったので、個人の見える化もすると西の湖も、前回の事例と同じ位の関係団体等が挙がってくるのではないかと考える。

オブザーバー

- ・資料1のリストについては、よくまとめられていると感じた。ただ、事業をされている方々もまだいるのではないかと思うので、そのあたりも捕捉できれば良いのではないか。

座長

- ・私も調べた中で、特に安土方面でまちづくりに関わっている方々が積極的に西の湖を活用されて、環境教育等の取り組みをされており、非常に活発な活動をされているという印象を受けた。安土方面ももう少し掘り下げてもっと様々な方がおられるかもしれない。
- ・学生の皆様は、このように活動団体が多くおられるということも前提にした提案を次回していただくということで、参考にさせていただきたい。
- ・西の湖周辺の活動団体がこうして視覚化されたが、これは始まりであり、「ここでこういった団体や人が活動されています」や、「私達もこんな活動をしています」というように、これからもさらに多くの方々が出てくると思う。

- ・元々活動されている方々も含めて、常に活動内容や状況をお互いに共有している状態というのは、おそらくこれまでなかった、もしくは見えにくかったのではないかと考える。こういった情報を常に共有できることが必要であり、その繋がりがあってこそその廻遊路になってくると考える。
- ・そういう意味では、議事②が「基本方針策定に向けた意見交換」となっているが、活動団体の方々の情報共有や組織化の在り方について、各委員からの意見をいただいて、ぜひ次回に向けての検討をしたいと思う。
- ・この活動団体の組織化について、このような枠組みや関係性が重要だろうということについて、意見をもらいたい。

委員

- ・これだけの主体が様々な活動をされているということで、どういう活動をされているのだろうということを考えるだけでも、非常に楽しみである。
- ・リストの補足としては、行政関係もより詳細に挙げておく方が良い。特に、「近江八幡市」ではなく、第2回会議で法的規制でも挙がっていた市の関係各課なども、どういう形で関わっているのかを挙げた方が良い。もちろんその他の課でも様々なことで関わってらっしゃるのではないかと考える。また、滋賀県の関連活動も、ぜひリストとして挙げていただきたい。
- ・他には、大学関係や研究機関など、今回も東京大学、京都大学、滋賀県立大学と3つの大学が関わっているということもあるため、そういったところも含めてリストの拡充はしていただきたい。
- ・今回のプロジェクトもそうだが、行政の取組だけやハード事業だけでは活性化や定着、継続していくのは非常に難しい部分があるだろう。行政の予算がなくなってしまうと止まってしまうこともある。
- ・そのため、このように関係機関が連携協力する以上に、主体的に運営管理に参画していただくことが取組を持続的に進めていく上で非常に重要だと考える。組織化する場合は、キックオフの段階で、各団体がどのような取組をされているのかを紹介いただく会があると良いのではないかと考える。
- ・それぞれの団体がこういう取組をしていますよということが関係者だけでなく、対外的にも紹介できるようなイベントや媒体ができると、非常にワクワク楽しく立ち上がっていくのではないかと感じた。

委員

- ・今テーマになっている情報共有や組織化というのは非常に難しいことだと思う。取り上げさせていただいた団体については、各団体と事前に話をした訳ではなく、こちらが知り得る情報で挙げさせていただいたため、この活動に協力いただけるかどうかは今後話をしていかなければならない。
- ・また、各事業者や地域団体については、事業者の中でもボランティア活動もあれば、生業としてされているところもあり、関わり方にも温度差があると

想定されるため、考えて進めていく必要があるのではないかと。

委員

- ・今リストに挙がっているのは56団体ということだが、全てを把握するのはなかなか難しい話になるのではないかと。また、各地域のボランティアになると、活動場所が限られており、そこで一生懸命にされていることも多いと感じる。
- ・一方で、話が挙がっているようなネットワーク化を少しずつ広げていく中で、各団体を紹介できるような機会もあると、また違った展開ができるかもしれない。

委員

- ・先の委員の発言でもあった活動団体の紹介の場や別の媒体での紹介という提案とも関係するが、この一覧をこの場で留めておくだけでなく、例えば、各団体がお互いのことを知ることによって、協力して出来ることもあるかもしれない。
- ・また、各取組を市民等が知ることによって、自分たちもちょっと参加してみようかなということも出てくると思う。
- ・そのためにも、この情報の鮮度を保ちながら、更新することが出来れば良い。しかし、この仕組みをどのような形で継続していくかということは、行政のマンパワーの問題もあるため、模索していないといけないが、そういったことも考えられるのではないかと。

委員

- ・先程、商工会議所の青年部などでも活動をしているのではないかとという発言があった。ヨシ地の中でも全く手の付けられていないヨシ地については、ヨシ自体の質が悪い。刈り取って、ヨシ地を燃やすことで、新しいヨシが生えてくる。
- ・そのような環境への取組として、商工会議所の青年部が北之庄沢や権座周辺のヨシ刈りを行っていた。ここ2年程は、コロナの関係で出来ていないが、権座の周辺は船でしか刈り取れない場所があるため、当時は地域の営農組合に協力いただいていた。ただ、年々協力関係も薄まり、最近では活動できていないため、リストには挙げていない。
- ・そのような中、水郷めぐりの事業者などがイメージしやすい例だと思うが、西の湖を活用して生業をされている方々ももっとヨシ刈りなどの環境保全活動を積極的に取り組んでいただいても良いのではないかと。
- ・資料1のリストを見ても、非常に多くの方々がボランティアでヨシ刈りをされているにもかかわらず、ここで生業をしている方々がそういったことをしていることが見えにくいのが、少し不自然に感じる。そのようなことから、様々な分野で連携していくことが非常に重要である。
- ・また、地元の方々でも、水郷めぐりに乗ったことがないという人は多い。ま

ずは、地元の方々に西の湖や水郷めぐりの良さを知っていただき、市外の方々へも伝えていっていただくことが大切である。

- ・小学校でも授業の一環でヨシのことなどを学ばれているのであれば、ぜひ多少なりとも西の湖に関わったり、水郷めぐりの体験をしていただくことも良いことだと思う。このような連携が出来ていくと、もっといろんな取組につながってくるのではないかと考える。

委員

- ・資料1のリストを作っている段階で商工会議所や商工会などのような中間支援を担われている団体が抜けているなど感じた。また、自治会関係では、円山町や白王町などは一定挙がっているが、もっと他の自治会も関わっていらっしやるのではないか。
- ・明確に組織化されている団体以外に、少し把握し難い個人など、我々が意識している外側にいるようなボランティアで活動されているような方々がまだ見えていないということに気付けた。
- ・他には先の意見でもあったように、学校教育関係というのは非常に重要な項目であるはずなのに抜けてしまっている。例えば、滋賀県立大学が関わっていることはイメージしやすいが、西の湖に東京大学や京都大学が関わっているということはこの会議メンバー以外ほとんど誰も知らないだろう。3大学が関わっているということだけでも、外から見ると非常に価値があることだと考える。
- ・今、県内のいくつかの高校で、探求学習の資料作成やサポートをしているが、個人レベルでいうと、守山市や長浜市、大津市などの高校生も西の湖でフィールドワークをされている。
- ・そういう意味では、拾いきれない個人がたくさんいる。学校の探求学習でフィールドワークをする学生は多く、リストに挙げるのが相応しいかどうかの判断は難しいが、まっせに所属していた時にそういった学生の受入対応も多かった。
- ・西の湖は何もない場所と言われるが、このリストを見れば、これだけ多くの活動があるということがわかる。やはり、このリストを見える化し、次の議論ができると良いと思う。
- ・組織化の話については、何のために組織化するかという共通のアジェンダは絶対に必要だろう。ただ、これだけ多くの団体があるので、どんなアジェンダを掲げても、全員を巻き込むのは難しいとは思う。
- ・例えば、「100年後、西の湖を綺麗な状態にしていこう、美しい状態にしていこう」というような難しい社会課題かもしれないが、それに取り組もうということであれば、直接協力出来なくとも、様々な関わり方はあると思う
- ・全員を巻き込む共通のアジェンダは正直難しいと思うが、西の湖をより良く

するための新しいシステムというか柱が出来れば良いのではないか。

オブザーバー

- ・私の方からは、現在安土未来づくり課と進めている組織作りの話題も含めて話をさせていただき、情報共有と議論を深めていきたいと思う。
- ・2年前から安土未来づくりということで、いろんな団体が集まり、安土全体のまちづくりのプランやアイデアを詰めて、出来ることを一つずつ検討していこうと、昨年度に地域の皆様と全体のアイデアを出し合い、今年度は更にアイデアの中で何が出来るだろうかということを検討してきた。その中で、旧安土町の各団体や地域資源に関わるような団体様と議論を進めてきた。
- ・考え方としては、様々な活動を紹介するためのプラットフォームを作っていくということと、それぞれの団体などが考えている様々な発想を一つにまとめるということコンセプトにしている。
- ・基本的には、連携協働プラットフォームを作り、それを運営できる事務局として、コーディネーターとなる人材をしっかりと決めていくことが大切だという話を進めてきており、その中で、様々な地域活動が今までどうだったのか、そして、これからどんなことをやりたいのかを話し合っている。
- ・なお、西の湖が関わるプログラム案が非常に多く出てきており、収益事業に関連するものもあるため、今後どう進めていくのか。そして、西の湖だけでなく、安土城跡、観音正寺、老蘇等も含め、様々な資源があるため、これらをセットで地域の中での経済や人材の循環が出来ないだろうかと検討している。
- ・安土全体で前に進めていこうという話がある一方で、どこから始めるのかということが議論になっている。その中で、民間事業者の協力を仰いでいこうということで進めており、その内容については後程説明させていただく。
- ・やはり先程話があったように、ボランティアだけでは限界があるという話は、今までヒアリングした様々な団体からも出てきている。最初は良いが、いざ継続するとなると、継続するための体制を支える仕組みがほしいという声が多く、それも踏まえると、西の湖周辺は非常に重要な拠点となってくる。
- ・西の湖すてーしょんなどの公共施設もあるため、それとセットで考えたときに重要な拠点になると考える。これについては、西の湖を拠点としている団体が多数あり、それらが一つのまとまりと考えられ、安土は安土で一つのまとまりと考えられるため、それぞれが上手く連携するような組織作りが必要だと感じている。

座長

- ・具体的な組織化に向けての様々な提案や意見をいただいた。
- ・まずは、情報共有が重要で、これだけ多くの活動主体がいるため、一堂に会するような機会を設けてはどうかということ。そして、すべての団体等が一

回で集まるのは難しいのではないかということから、少しずつ勉強会という形で進めてはどうかということ。

- 例えば、具体的に今からできることとしては、これも誰が担うかということはあるが、まず各団体へ取材に行き、その動画をインターネット上に掲載していただいても、随分違ってくるのではないか。それぞれのインタビュー映像を見るだけでも、まさにバーチャルで西の湖を回遊しているというような状況で、これも一種の廻遊のあり方と考える。そのような情報共有に関する提案があった。
- 次に出てきた話題は、このように多様な主体の方々がおられるため、緩やかにでも交流できるような組織はどうかという意見をいただいた。緩やかにということは、まだ把握しきれていない他の団体の方々も参画しやすいようにするという意味であり、開かれた組織として緩やかに繋がっていけるものであるべきという意見があった。
- 例えば、マザーレイクフォーラムは、滋賀県だけでなく、民間も運営に関わっている非常に緩やかな会議体のため、参考になるかもしれない。
- そして、一気に全てを組織化するのは難しいということから、まずは情報共有をしながら、徐々に活動を広げていくのはどうかという意見があった。
- 具体例として挙がっていたのは、ヨシをテーマとして、各団体等の取組の中で困っていることがあれば、私達も一緒にやろうという横断的な連携で新しい動きが生まれてくるのではないかとのことだった。
- このような実績を少しずつでも積み重ねていくことにより、徐々に組織として強い繋がりになってくるのではないかということで、ステップを踏んでいくことも必要である。
- さらに、2つの大きな要因を意見としていただいた。
まず1点目は、組織化や活動の継続をしていくためには、設定が難しいかもしれないが、共通の大きなアジェンダ、つまり将来に向けての目標が必要ではないかということ。例えば、西の湖を100年後には今より2倍綺麗にするというような目標を持つことが重要である。
2点目は、このような活動や西の湖に対する様々な想いを将来へ確実に繋いでいくためには継続性が重要であるということ。これに関しては、やはりボランティアでは限界があるため、活動を継続していくための支える仕組みが必要であろう。西の湖には非常に高いポテンシャルがあり、活動団体の方々にも事業者が多く含まれている。中には、厳しい状況の事業者もおられるということだが、共有される目標の下に新たな出発が可能となるかもしれないと感じた。
- 以上が、新しく意見として出てきたことと思うが、いかがか。

- 委員
- ・小中高ふくめ学校・教育・子ども関係も多々あると思われる。自治会やその他、地域活動についても、もっと様々あるのではないか。
 - 西の湖周辺の環境・景観等をふくめて廻遊路と捉えられるので、農業組合や集落営農組織、生産組合等も、活動団体リストに挙げておいた方が良い。
 - また、漁業関係というのは西の湖ではどうなっているか。
- 事務局
- ・西の湖としては漁業組合がないため、個人でやっている方はいるかもしれないが、組織立ってやってはいない。
- 委員
- ・資料1の20番台後半は事業を行っている事業者があるが、もっとあるのではないかと感じた。また、17番から21番はボランティアとあるが、これももっと他にもあるのではないか。
- 事務局
- ・企業などがCSRの観点から、ボランティア活動としてヨシ刈りをされており、今ここに挙げている以外にもあると想定している。ただ、事業者によって活動もバラバラであり、毎年やっているところもあれば、そうでないところもあるようだ。リストには、現状こちらで把握できたところをリストアップさせていただいた。
 - ・例えば、リストの1番に記載の公益財団法人淡海環境保全財団は、企業のCSR活動でヨシ刈りを検討されていた場合にそのコーディネートなどを手伝われていると聞いている。
 - ・他には、43番のヨシでびわ湖を守るネットワークについては、株式会社コクヨ工業滋賀を中心とした団体であり、民間企業も多く関わってらっしゃるようである。
- 委員
- ・今の話でもあったように、このリストの中でも既に繋がりがあり、一緒に活動されているところもたくさんあるかと思う。先程、座長からの話でもあったように、今後そのような繋がりも追跡していくことに加え、事例紹介をしていきながら、関係する組織の裾野がさらに広がってくると良いと感じた。

■ 3. 議事(2) 基本方針策定に向けた意見交換

- 座長
- ・そろそろ議論も出尽くしてきたかと思うので、議事②「基本方針策定に向けた意見交換」に移るが、事務局としては、当初4回で基本方針をまとめるということであったが、そのスケジュールについて変わらないか。
- 事務局
- ・当初は、4回と考えていたが、現状では次回までに議論がまとまりきらない可能性もあるため、委員の皆様の任期が8月までということもあり、可能で

あれば、今年度4回開催とし、議論を深めた上で、来年度に第5回を開き、基本方針をまとめたい。

座長

- ・今年度での基本方針策定ということであれば、活動団体の組織化についての大局的な方向性を示すことになるかと想定していたが、来年度8月までとなると、具体的にこれからどう進めていくかというようなアクションプランにも踏み込んで議論が出来るのではないかと考える。

事務局

- ・議事①の中でも意見が出ていたように、多くの団体が同じ方向で進んでいくというのが難しいため、アジェンダや柱となる目標を決めるべきでないかという話が出ていたが、そもそもこの会議の中で、どのように西の湖を活用していくのかを議論し、決めていくことが組織化の話の中で挙がっていたようなアジェンダや柱にも繋がってくるのではないかと考えている。

座長

- ・前回までの会議で近江八幡商工会議所や安土町商工会から具体的な観光ルートなどの提案もいただいている。
- ・さらに、観光だけでなく、生活者の暮らしの支援、環境を将来に繋ぐという意味では環境教育、また生業の側面から、そして西の湖の活かし方を自然科学の側面からも何か検討できないかというように、大変魅力的な様々な意見をいただいている。
- ・それらの活用については、各委員から既に意見をいただいているが、これまで出ていた活用方法の意見以外に、資料1に記載されている活動団体の方々の組織化という話をしたことも踏まえて、アイデアやもっとこういう方向性もあるのではないかとすることがあれば、意見をいただきたい。

委員

- ・先程、事務局から来年度も会議をするという話があったが、事務局としてどこまでのアウトプットをイメージされているのかを後程説明いただきたい。
- ・今日までの会議では、「ソフト」と「民」の話が関係団体の組織化も含めて、色々出てきたと思う。
- ・最終的に、基本方針として、どのようなものを出していきたいのが重要である。基本方針なので、具体的な取組まではなかなか踏み込めないかもしれないが、素案としてどういう形になるのかを示していただければ、それを元に今まで議論してきた内容と3大学が提案する内容をどう盛り込んでいくかを次回の会議で詰めていけると考える。

事務局

- ・この会議の最終的なアウトプットについてだが、西の湖には様々な活用する方法があると考えており、次回は各大学の学生の視点からの具体的な取組提案

が出てくると想定している。

- ・その具体案を実現するかどうかという議論は、今後の組織体の中で出来るだろう。今回の会議では、例えば「西の湖は何も触らず、今の景観を残していくべき」や、先程あったように「100年後に向けて、環境に特化した西の湖にしていく」、もしくは「ビジネスモデルを作り、稼ぐ仕事をしていく」などの方針をこの会議で決めていきたいと考えている。
- ・今までの4者連携会議の中で、「守り、活かす」という考え方が出ていると認識している。当時具体的取組として、かわまちづくり計画を作り、西の湖を活用していこうというどちらかという開発の方向性で検討していたが、途中で止まっている。そのため、それをもう一步前進させて、何をどう進めていくのかという大前提となる基本方針を作っていきたい。
- ・それがまとまれば、新たな組織体になるかもしれないが、各活動団体とどのように活動を進めていくのか、事業者を入れてどのように開発していくかなどを具体的に検討していく段階に移ると考えている。

委員

- ・どこまで具体的にあるかは別にしてもやはり行政が考えている取組を整理して、次回会議で提示いただく方がより内容が詰まっていこうと考える。かわづくり・みちづくり・まちづくり関係や周辺の農地・農業等の関係、重要文化的景観の話などもふくめ、行政側として取り組んでいこうとしている内容も合わせて議論して、最終的にまとめる必要がある。

委員

- ・西の湖をどのように活かしていくかということだが、個人的には、漠然としたものかもしれないが、「西の湖を守る、綺麗にする」という方向性が良いと考える。
- ・ただ、現状を紹介させていただくと、琵琶湖総合開発事業により、琵琶湖の水位が下がった中で、長命寺川沿いにある渡合橋のところに水位調節のための樋門がある。それは農業用水利施設として農林水産省の補助金で作ったもので、灌漑期に琵琶湖の水位が下がると当然西の湖も水位が下がるため、水位を上げるために樋門を閉めて水位を確保するというをしている。
- ・様々なしなみがあり、例えば農業者と水郷めぐりの事業者は考えが違うため、樋門の開け閉めで議論がある。災害対応として大雨の際には、急に樋門を開けるという対応も必要になってくることもあるが、基本的には農業用水利施設のため、その基準に従って運用している。
- ・そのようなことをどうしていくかなどの様々な課題もあり、自然に戻すというのが一番良いのだろうが、今となってはそうはいかない部分があるということで、少し紹介させていただいた。

委員

- ・「活かす」という考え方だが、先ほどもあったように、「活かす」の前提として「守る」という視点が大事である。それに付随して、「育つ」というのか教育的視点も大切だと考える。
- ・「活かす」の前段として考えなければならないのは、市民である。特に、西の湖周辺にお住まいの方々が将来どうあってほしいのかというところは、重要視すべきであり、単にここで金儲けをするという方法が本当に望まれているのかはしっかり考えなければならない。
- ・例えば、水質や風景、様々な生き物の住処になっていることから考えると、やはり水質は将来的には綺麗になり、この風景や、豊かな生き物の住処である状態は残して行ってほしい。こういった点が欠落しない中での活かし方が好ましいと思う。

委員

- ・少し話を戻して、事務局の立場も含めて、話をさせていただく。先ほど申した通り、委員の任期が令和4年8月までということもあり、それまでに本推進会議としての基本方針を策定するというので、これまでの様々な提案も含めて、たたき台を詰めさせていただくということになる。
- ・今後、組織化ということも検討している中で、もちろんそこに参画する団体等の想いもあるため、例えば基本方針を決めて、これで行きますという打ち上げ方のものではなく、そのあたりの位置づけも含めて、どういった取り扱いするのかを考えながら、進めていきたい。

委員

- ・まず、先ほどの活動団体で追加がある。今年度、近江八幡商工会議所女性会が日本商工会議所の補助金を活用し、ロケ地マップを製作しており、最終段階に来ている。
- ・このロケ地マップは、八幡堀周辺だけでなく、旧市街地や水郷めぐりなどの案内を作成している。スマホで動画を撮影して、配信することで、近江八幡のことを知っていただいて、実際に近江八幡を訪れていただくというようなことを考えている。それをベースとして、女性会のメンバーが中心となって、まずはその3エリアを中心に、各地域のインスタ映えするような景色やものを挙げていく。
- ・水郷エリアの撮影に行ったのが、ちょうど滋賀県がされていたよし笛ロードの改修工事完了の頃だった。西の湖園地を撮影の際、ちょうど親子でフィールドワークをされていたのを見て、以前にあったトイレも撤去されている中、この人たちはトイレをどうされるのかなと思った。他にも、バードウォッチングや写真撮影をされている方もいた。
- ・やはり特別大きな開発が必要だとは思っていないが、自然を楽しみに来たり、西の湖を見に来ている方々が、快適に過ごせるような環境を最低限整備する

必要があると考える。

- ・そういったトイレの問題は、以前から非常に多く出ているが、実際に来られている方を見ていると、西の湖周辺にトイレがないと不便だなと思う。撮影スタッフも市民だが、「西の湖園地には初めて来たけど、すごい綺麗なところですね」と感動されていた。
- ・先程、水郷めぐりの話もしたが、まずは地元の人が気軽に来られる場所で、満足して帰っていただけるような整備が必要だと考える。道路も一部綺麗になった。景観を崩すのは良くないが、案内板等は必要だろう。特にインバウンドに関していうと、外国から来られる方は、もうありきたりな観光地は面白くないと言われているようなので、西の湖に来ていただくと喜んでくださるのではないかと思います。そういった方向けの案内板等というのにも必要だろう。

委員

- ・西の湖はどういう場所なのかということを考えている中で、最近話題となっている人新世の象徴的な場所と大きく言っても良いのではと思っている。
- ・元々西の湖は大中の湖と一体的になっており、ほぼ琵琶湖の一部だった。戦中戦後の食糧難のため、人間の都合で大中の湖を干拓してしまった結果、大きく水の流れが変わり、徐々に水質が悪化していき、先程も説明があった琵琶湖総合開発事業によって更に水の流れが停滞し、より濁ってしまった。どうやって綺麗にしようかと考えた時に、どうしようもない状況を自分たちで作りに出している。
- ・それに対する対症療法として、今までは2年に1回程度浚渫をしていたが、それも予算がなくなり、自分で自分の首を絞めるような構造になっているのではないかと感じる。
- ・西の湖には、産業界も一体となって人が管理していたことにより、日本のどこにもないくらい美しいヨシ地があったはず。それなのに、後継者問題や社会の変化でどうしようもなくなっているのが、第1回の事務局から出された前回会議までのまとめ資料を見ても、何から始めれば良いかは言い切れないが、とにかく全部やらねばならないと思った。
- ・やはり教育的効果は非常に高い場所だと考えており、重要文化的景観という大きな文化財価値がある。その価値をなくすか、維持するかは地域次第であり、現状まだその価値は残っているので、それを使って次の世代を育てるには非常に良いフィールドだと思う。
- ・堅田にある内湖でいうと、西の湖よりももう少し濁っていると思う。そこも真珠の養殖をやっているのが杭が多く放置されており、それが景観等を阻害しているから地域住民で杭を抜こうとなり、コミュニティを再構築する動きがあったりもする。草津や守山などでも内湖があるので、地域の方々は四苦八苦されているように思う。

- ・ただ、西の湖は他の地域に比べて、圧倒的に既存のコミュニティが多くあり、ちょっと力を入れれば良くなるのではと思うし、西の湖を美しくするという大きな柱は、琵琶湖全体にも言えることであり、人間がしてきた行為の代償としての今の状態だと思う。
- ・それをどう改善していくか、次の時代に向けた大きな流れを作っていこうというためには、何か大きな柱がないとまとまらないのではないかという思いもある。
- ・西の湖での賑わい作りをどうするかということでは、1980年代からレクリエーションとして導入したよし笛ロードなどもあるが、それが機能していないのであれば、見直すことも必要だろう。
- ・また、アカデミックな方々が集まっているのであれば、そういったものを推進する場を提示することが必要かもしれない。博物館として西の湖を楽しむという素晴らしい着眼点があるので、そういったものを利用しながら、本来どういう人たちや活動が増えれば良いかなどを、仮説として、5年10年でこういうコミュニティを作ろうということを考えても良いかと思う。

オブザーバー

- ・まず考え方としては、安土未来づくりの取組の中で地域の方々と議論し、一番重要だと感じたのは、自分たちが子供の頃に体験したことや学んだこと、感動したことなどの原体験を未来に繋げていきたいし、地域内外の人にもぜひその魅力を知ってもらいたいというのが根本にあると理解している。
- ・ただし、それを実現しようとするとうちでもボランティアベースになってしまうため、今よりスケールを大きくすることによって事業化が成り立つのではないかと考えている。
- ・ぜひ事業として成り立たせて、地域の方が気軽に体験できるようなプログラムを充実し、それが環境学習や環境保全に繋がるような形で進めていきたいという議論があった。
- ・実際去年様々なアクションプランを考えた中で、取組に対する人気投票をすると、そこで上位に挙がったのは西の湖を活かした企画であった。西の湖テラスや自然塾、グランピングに近いキャンプツアーのようなもの、いわゆる日常使いとして気軽に自然体験ができるようなものをぜひ進めてほしいという声が多かった。
- ・それを踏まえて、実際これらをやろうと思うと、その道のプロの力が重要になってくるので、エコツーリズムやサップ、カヌーなどを実際に事業としてされている事業者にはヒアリングを行い、西の湖での収益性を確認した。
- ・すると、拠点がいかにあれば良いという話や、寒くなる冬は特に環境学習やエコツーリズムのニーズが大きいという話もあった。琵琶湖周辺で収益を上げながら、西の湖周辺で特色のあるプログラムを作ってやりたいというよ

うな事業者など、いくつか話を伺うことができた。

- ・その時に、西の湖すてーしょんやB&G海洋センターなど、まだ十分に活用できているとは言えない施設が使えると良いという意見をいただいている。
- ・このあたりについてはすぐというのは難しいかもしれないが、スモールスタートとして、まずは小さくやってみようというような声も出たため、実際に西の湖すてーしょんで社会実験的にやってみることを、早ければ来年度中で検討している。
- ・こういった点を深めながら、社会実験に参加していただいた方の意見等も踏まえて、いきなり大きなことを始めるのではなく、感動体験を繋いでいくというようなビジョンを共有しながら、実際の伝え方については、色々と試しながらやるのも一つの方法だと考えている。

座長

- ・基本方針策定に向けた意見交換として、重要な意見をいただいた。
- ・まず指摘としては、主体間で想いが異なることもあるため、推進会議として明確な固定化されたような方針を出すのは難しいのではないかと、あるいは周辺住民の方々を中心に市民の皆様がどう思われるかの受け止め方も違う。
- ・そして、事業者の中でも利害関係があり、どうしても調整が必要なところもあるということ、また、少し視点を変えると、もう既にロケ地マップを制作されている団体があり、個人でフィールドワークを行っている方々もいるということで、すでに西の湖のファンがおられる。
- ・そういった方々が実際に西の湖を訪れた際には長時間過ごすことが難しいという意味では、西の湖が元々有している素晴らしい環境を壊さずに、さりげない最低限のおもてなしをするための整備はどうだろうかという活かし方の意見をいただいた。
- ・他には、人と自然が作ってきた類稀な美しい風景を持っているので、さらに磨きをかけるともっと良くなるはずであり、そもそもそれを活かすのはどうだろうかという意見をいただいた。
- ・さらに、やはり地元住民の方々は、かつて自分たちが経験した原体験をぜひ未来に繋いでいきたいという想いが強いことから、活かし方としては関係や共感といった点が大事だろうということ。
- ・そして、そういったことは一気にできることではないため、できるところから少しずつ取組を実現していくという進め方も大事だということから、基本方針のあり方としては、できるところから少しずつというようなキーワードもいただいた。
- ・従来の観光は、サービスを提供する側からこういう観光はどうだろうと提供する形であったが、今は訪れる方が、100人いれば100通りの受け止め方がある。

- ・これに関しては、メタ観光ということもよく言われており、西の湖に来られる方も、ある人は聖地巡礼として来られることもあれば、魚釣りを楽しみに来る人あるいは子供にヨシ地を見せるために家族で訪れたり、来訪目的も違うということで、一つの固定化された方針というよりは、西の湖の良さ、美しさに、さらに磨きをかける努力をしながら、訪れる方々にさりげない最低限のおもてなしをしていくための必要な整備を順次進めていく活かし方というのが、皆様から出た意見の中で多い印象であった。

■ 3. 議事 (3) その他

座長

- ・それでは、次に議事③「その他」に移るが、ここで共有しておくべき事項として、西の湖占有物検討専門部会の進捗について、報告があると伺っている。

委員

- ・資料3を元に、専門部会の進捗について報告する。
- ・第1回の専門部会を12月24日に開催した。資料3の第3項に現状の問題と記載されている通り、西の湖にある使用されない状態で放置されている沈没船や杭等が景観や航行の妨げになっているが、所有者の整理まで出来ておらず、撤去までの議論に行き着いていない。
- ・このようなことから、専門部会を立ち上げ、具体的な話し合いを進めていくということで、先程までも話に出ていた水郷めぐりの事業者も含めて、議論を行った。
- ・そして、第5項の経過報告に記載の通り、今後の大まかな流れとして、次の通りであるということを確認した。
 - ①所有者情報の整理
 - ②原則的な対応として、所有者自身へ働きかけを行い、撤去をしていただく
 - ③それでも難しい場合は、最終的に行政代執行等の法的措置も検討していかなければならない。
- ・今後は、この①から③の流れに沿って、まずは①所有者等の整理を行い、第2回専門部会を開催する。専門部会についても、本会議と同じく、来年度8月までに一定の方向性を出すべく進めていく。

座長

- ・ただいまの西の湖占有物検討専門部会の進捗報告について、質問等はあるか。
- ・確かに、廃船や杭の撤去は西の湖の美観という観点からは、撤去などの最終的な状況に至るまでは、難しい局面あるいは非常に時間がかかるということも予想される。
- ・先程、メタ観光やメタツーリズムという概念を話したが、かつて西洋では朽ち果てた館が、その場所の時間経過を見せる風景の一部として文化的に重要な要素の一つとして取り上げられた時代もあった。

- ・確かに、環境の側面からは大前提として、そのような方針は必要だと考えるが、もしかすると、西の湖をめぐる様々な観光のあり方や情報の発信の仕方も含めて進めていく中で、仮にこういったことに価値を見出されるような方々が出てきた場合には、選択肢として、一つの結論だけでなく、様々な検討をした上で違う着地点もあるかもしれない。
- ・あるいは、着地点にいったものの経由地というか、ある一定の部分は何か別の価値観を見出すことで、違う捉え方もできるのではないかと、今日のこういった活動団体の話を伺った中で感じた。

委員

- ・係留杭や真珠養殖をされていた時の杭というのは、占有許可の取得記録などは残っているのか。また、舟に関しても、登録はどうなっているのかはわかるのか。

事務局

- ・まず杭につきましては、滋賀県の方で運用しており、概ね占有許可を取られているようだ。中には、無許可の放置杭もあるだろうということで、そこは再度確認中である。また、舟については、標識があるため、ある程度追跡することが可能である。

委員

- ・専門部会の中で、映画のロケ等で古い田舟を使いたいという話もあると聞いている。
- ・もちろん水郷めぐりの航行上の安全のために、絶対抜かなければならないところから始めなければならない。
- ・どこまでやるのかも行政がもっている情報を元に所有者を特定し、議論していきたい。

座長

- ・本日の議題は以上となるが、全体を通して何か意見や質問等はあるか。

※意見無し

座長

- ・それでは、最後に本日の議論をグラフィックレコードでまとめていただいたので、振り返りたい。

オブザーバー

- ・本日の議事について、振り返りをさせていただく。
- ・まず、議事①の西の湖周辺の活動団体について整理することから始まり、リストアップした結果、NPOや教育機関、企業、農業関係団体等、50を超える活動団体が西の湖周辺で活動していることがわかった。
- ・その中には、例えばヨシの保全団体や、子供たちの遊びの機会を提供する団

体など様々あることがわかった。また、それを支援する行政や財団などが新規参画を支援していることもわかった。

- ・しかし、活動している団体同士が緊密に情報共有をして、私もこういう活動を試みよう、参加してみようというようなプラットフォームがないのではないか、そういう場が必要なのではないかという議論になり、ではどんなプラットフォームなら良いのか、どのように組織化していけば良いのかという議論に移っていった。
- ・地図も使い、活動場所でグループ分けをすると、特定の地域で活動している団体もある程度グループとして見えてきた。
- ・しかし、リストに載っている以外にもまだまだ活動団体はあり、把握しきれない個人で関わってらっしゃる方もまだまだいるということもわかってきた。
- ・近年、活動団体の中でも問題が出てきており、例えばヨシ事業者の話では、ヨシの質が落ちてきていることや、事業主の高齢化によりヨシ産業が廃業の危機に瀕しているところもある。
- ・このようなことを解決するために、お互いの情報を共有するようなプラットフォームや組織化の在り方について議論された。
- ・ただ、これを解決するにも、行政だけでは限界があり、いろんなところに窓口を作る必要があるということが話し合われた。では、誰が中心になってやっていくんだという議論もあり、この場で把握できていない方々もより主体的に参画できるようなそういう場が大事だということをお話した。
- ・活動に対する各団体等の温度差をどうするのか、組織化を進めるとなった場合にそれを広げていくためにはどのような発信方法が必要なのか。例えば、活動団体にインタビューをして、その活動をインターネット等で発信していくことも考えられる。
- ・また、やはり活動を継続するとなると、どうしてもボランティアになってしまいがちだが、様々な活動をできるだけ収益化していくべきという意見もあった。ヨシの場合は水郷めぐりと連携して体験型にする、これも情報共有をすることで、できる可能性も生まれてくるのではということだった。
- ・さらに、団体を繋ぐための中間支援組織も不足しているのではないかという話題や、近年、教育機関、例えば高校でも探求学習が増えてきており、3年間で探求するということが非常に大事になってきており、そういった学生をどう取り込んでいくのか、どう参画してもらうのかも考えていかなければならない。そこには、やはり地域の方々をどう繋げていくのが良いのかを考えなければいけない。
- ・そして、その全てを包括するアジェンダは、それぞれの団体の活動方針が違うため、難しいかもしれないが必要だという意見があり、安土と近江八幡と

- 地域で分けるのではなく、協働して、包括的にどこまで詰められるかが重要で、それを今後どう進めていくかという議論を次に行った。
- ・西の湖を包括的な組織にするためのプラットフォームを作るべきだという話の中では、100年先を見据えた目標が必要だということであったが、直近では、東京大学、京都大学、滋賀県立大学が具体的取組を考えているところであり、基本方針を策定するにあたって、そういった提案を取り入れながら徐々に進めていこうということであった。
 - ・学生の視点では、現実的な予算も大事だが、こういうことができれば面白いねということをお願いして発信していきたいということであった。
 - ・では、100年後の将来に向けてのアジェンダなどをどうしていくのか。それを考える上で第1回からも意見が出ていたように、「環境を守りながら、観光客を増やして発展させていこう」という視点と、「環境を守り、地元の生活者のための環境を整え、将来的には環境科学の社会実験の場として発展させていこう」というような視点があり、こういった意見を新しく出来るであろうプラットフォームにどう組み込んでいくのか、という2つの視点があった。
 - ・やはり自然は大事なもので自然にもっと戻そうという視点と、もっと活用して稼いでいこうという視点があるが、これは決して相反する訳ではなく、両方大事である。
 - ・綺麗にするには、環境を整えないといけない。実際に観光もすでにされているが、それをやるにもトイレがない等で不便だということもある。おそらくこれは既に活動されている団体の方々にとっても同じであると考えられる。
 - ・このように外から訪れる人たちもそうだが、まずは地元の方々快適に過ごせるようにする必要がある。
 - ・他には、琵琶湖総合開発によって水質が悪化したことなどにより、自分で自分の首を絞めてしまっているような状態であるが、それを解決するためにコミュニティがある。
 - ・西の湖は既にこんなにも活動団体があり、そういうことをやりやすい環境が整っているのではないかということである。
 - ・やはり未来への投資である環境学習も大事にしていこうということ、そして、地域の住民がどういう未来を望んでいるのか、地域の活動団体をどうやって繋げていくのか、この人たちがより西の湖を活用できるようなプログラムが必要だろう。
 - ・ただ、こういった取組の際にも、ボランティアでするのではなく、最低限の収益は出せるように考えましょう、例えばヨシを活用すれば、その素地はあるのではないかということ。
 - ・最終的に、その人達をまとめる考え方となると、やはり「西の湖を美しくする」ということが重要なテーマとなるのではないかという結論であった。

座長

- ・基本方針策定に向けて、大変多くの知恵を共有できたと思う。それでは、本日の議事は以上となる。事務局より連絡事項はあるか。

■ 4. 閉会

事務局

- ・次回第4回会議につきましては、基本方針にかかる議論に加え、東京大学、京都大学、滋賀県立大学の皆様から、西の湖の活用提案について発表いただく。
- ・開催時期は3月を予定しており、後日日程調整させていただく。以上をもって、本日の会議を終了させていただく。